

集計結果

- (就労継続 A 型) 返信 3 件/12
- (就労継続 B 型) 返信 7 件/15
- (就労移行) 返信 5 件/11
- (地域活動支援) 返信 1 件/2
- (生活介護事業所) 返信 3 件/6
- (児童・放デイ) 返信 5 件/11
- (ヘルパー事業所) 返信 4 件/24
- (相談機関) 返信 3 件/8
- (訪問看護) 返信 0 件/8

令和 2 年度

新型コロナウイルス感染症対応に対する障害福祉サービス事業所等アンケート(全体会)

問 1、新型コロナウイルス感染症 (以下「新型コロナ」) にかかる営業状況 (5 月 31 日時点)

- A 型 ・縮小営業した (2) (約 40 日、25 日) ・通常営業 (1)
- B 型 ・縮小営業した (3) (19 日、10 日) ・通常営業 (3)、在宅ワーク (1)
- 移行/地活 ・縮小営業した (60 日、50 日) (2) ・通常営業 (4)
- 生活介護 ・縮小営業した (1) (30 日) ・通常営業 (2)
- 児童 ・縮小営業した (1) (時短) ・通常営業 (3) オンライン (1)
- ヘルパー ・通常営業 (4)
- 相談 ・通常営業 (3)

<理由>

- A 型 ・利用者や職員の感染への不安があった (1)
 ・その他 (1) (客足が減少したため)
- B 型 ・利用者や職員の感染への不安があった (3)
 ・その他 (1) (保護者からの要望)
- 移行/地活 ・利用者職員の感染への不安があった (1)
 ・その他 (1) (感染予防のため)
- 生活介護 ・利用者や職員の感染への不安があった (1)
- 児童 ・利用者や職員の感染への不安があった (1)

問 2 利用者の状況

サービス提供あり<サービス提供に対し配慮した点>

- A 型 ・接客時の利用者などへの感染の心配
 ・仕事量が減っている為、時間の使い方
 ・テレワーク準備、請求に計上できるかの判断や取り組み

- B型
 - ・作業の確保。公共交通機関での通所に不安のある利用者の在宅利用
 - ・手洗い、アルコール徹底、換気、時差出勤
 - ・在宅でのサービス利用を行なった。（5月末まで）
 - ・通所時の3密回避の方法
 - ・在宅でのプログラム
 - ・在宅、通所に分けての対応。検温、マスク、消毒、手洗いの徹底
 - ・コロナの対応法、新しい情報を日々伝える事で利用者様の不安を軽減するよう心掛けた。

- 移行/地活
 - ・3密を防ぎ、安心安全に通勤して頂くにはどうしたらよいか
 - ・コロナが心配で出て来れない
 - ・在宅への移行、サービス提供、面談方法
 - ・ソーシャルディスタンスを取る机の配置。透明アクリル板での衝立使用
 - ・対面式のプログラムは中止、オンラインで出来るものを中心に行う
在宅の方向けに個別対応
 - ・少人数制、クラスターの懸念がある事業は休み

- 生活介護
 - ・食事の提供、コーヒーショップ閉店、利用者間の距離を保つ等
 - ・3密にならないよう対策を取る事、利用者の活動と職員の働き
すべてにおいて

- 児童
 - ・感染予防で児童たちの距離感を保つこと
 - ・オンラインによる療育を取り入れた
 - ・子どもたちの距離の確保、なぜひっついてはいけないのか理解して
もらうのが大変だった。
 - ・在宅支援
 - ・時短、外出しない、職員マスク着用等

- ヘルパー
 - ・マスク、消毒液等の確保、各ヘルパーに配布
 - ・ご利用者様、ヘルパーに対しての感染予防の周知
 - ・発熱のある利用者サービス提供時のガイドラインの作成
 - ・感染予防対策

- 相談
 - ・相談を電話で対応しました

- サービス提供無 <サービス提供をしなかった理由>
 - ヘルパー
 - ・お客様が感染を恐れて
<サービス提供をしなかった場合の代替え対策>
 - ・家族対応

問3 新型コロナに関してお困りごと

- A型
 - ・利用者及び職員の感染への不安（3）
 - ・マスク/消毒液等衛生用品の不足（2）
 - ・利用者の精神状況悪化のおそれ（2）

- B型
 - ・利用者及び職員の感染への不安（7）
 - ・サービス報酬等の減少（4）
 - ・新型コロナに関する情報の不足（1）
 - ・マスク/消毒液等衛生用品の不足（6）
 - ・利用者の精神状況悪化のおそれ（5）
 - ・利用者・家族からの相談・苦情の増加（2）

- 移行/地活
 - ・利用者及び職員の感染への不安（4）
 - ・サービス報酬等の減少（3）
 - ・代替サービスの実施による交通費等の経費増への不安（1）
 - ・新型コロナに関する情報の不足（2）
 - ・離職・休職等による職員の不足（1）
 - ・マスク/消毒液等衛生用品の不足（4）
 - ・利用者の精神状況悪化のおそれ（4）
 - ・利用者・家族からの相談・苦情の増加（2）（通勤への不安）
 - ・風評被害（1）
 - ・その他（2）（在宅移行による職員の不安、就職者減少によるもの、機会損失）

- 生活介護
 - ・利用者及び職員の感染への不安（3）
 - ・サービス報酬等の減少（2）
 - ・マスク・消毒液等衛生用品の不足（3）
 - ・利用者の精神状況悪化のおそれ（2）
 - ・風評被害（1）

- 児童
 - ・利用者及び職員の感染への不安（4）
 - ・サービス報酬等の減少（3）
 - ・新型コロナに関する情報の不足（1）
 - ・マスク・消毒液等衛生用品の不足（3）
 - ・利用者の精神状況悪化のおそれ（3）
 - ・風評被害（1）（公共交通機関を使つての利用について他の事業所からの被害いやがらせ）

- ヘルパー ・利用者及び職員の感染への不安（3）
 ・サービス報酬等の減少（2）
 ・新型コロナに関する情報の不足（1）
 ・マスク・消毒液等衛生用品の不足（3）
 ・利用者の精神状況悪化のおそれ（2）
 ・利用者・家族からの相談・苦情の増加（1）
 （・いつから外出したら良いか？など答えに困る相談が多くあった。）

- 相談 ・利用者及び職員の感染への不安（3）
 ・サービス報酬等の減少（1）
 ・マスク・消毒液等衛生用品の不足（2）
 ・利用者の精神状況悪化のおそれ（1）
 ・利用者・家族からの相談・苦情の増加（1）

問4 新型コロナ対応のために令和2年6月～令和3年3月に不足する物資の数量

○A型（2件）

- ①不織布マスク (50枚入り× 箱)
 アルコール製剤(消毒用) (2) (500ml × 5本、2本)

- ②不織布マスク (50枚入り× 360箱)
 アルコール製剤(消毒用) (500ml × 10本)
 ゴム手袋 (100枚)

○B型（5件）

- ①不織布マスク (1) (50枚入り× 3箱)
 アルコール製剤(消毒用) (1) (500ml × 3本)
 ゴム手袋 (1) (100枚)

- ②不織布マスク (50枚入り× 5箱)
 アルコール製剤(消毒用) (500ml × 5本)

- ③不織布マスク (50枚入り× 50箱)
 アルコール製剤(消毒用) (500ml × 4本)
 体温計 (1本)

- ④不織布マスク (50枚入り× 10箱)
 アルコール製剤(消毒用) (500ml × 10本)
 体温計 (2本)

⑤不織布マスク	(50枚入り× 20箱)
アルコール製剤(消毒用)	(500ml × 12本)
○移行/地活(1件)	
①不織布マスク(4)	(50枚入り× 3箱)
アルコール製剤(消毒用)(2)	(500ml × 10本、2本)
体温計(1)	
○生活介護(3件)	
①不織布マスク	(50枚入り× 50箱)
アルコール製剤(消毒用)	(500ml × 20本)
体温計	(2枚)
その他	(防護服 8枚)
②不織布マスク	(50枚入り× 6箱)
アルコール製剤(消毒用)	(500ml × 50本)
ゴム手袋	(4000枚)
③不織布マスク	(50枚入り×200箱)
アルコール製剤(消毒用)	(500ml × 40本)
体温計	(3本)
○児童(2件)	
①不織布マスク	(50枚入り× 箱)
アルコール製剤(消毒用)	(500ml × 10本)
②不織布マスク	(50枚入り× 20箱)
アルコール製剤(消毒用)	(500ml × 4本)
ゴム手袋	(30枚)
○ヘルパー(3件)	
①不織布マスク	(50枚入り× 200箱)
アルコール製剤(消毒用)	(500ml × 60本)
②不織布マスク	(50枚入り× 50箱)
アルコール製剤(消毒用)	(500ml × 50本)
③不織布マスク	(50枚入り× 5箱)
アルコール製剤(消毒用)	(500ml × 10本)
○相談(2件)	
①不織布マスク	(50枚入り× 20箱)
アルコール製剤(消毒用)	(500ml × 10本)

ゴム手袋	(5枚)
体温計	(2本)
②不織布マスク	(50枚入り×	10箱)
アルコール製剤(消毒用)	(500ml ×	10本)
医療用フェイスマスク	(5枚)
体温計	(2本)

問5 新型コロナに対しその他対応に苦慮したことやお気づきの点

○A型 ・テレワークの導入

○B型 ・今回のような場合、感染拡大を避けるために、名古屋市の指導、支援の下、A型B型の様な事業所は休業すべきと考える(特にB型の事業所)。福祉サービスを受けている方の事は「在宅サービス利用」という機転を利かせたが、事業所で働く職員の安全は少しでも考えたのか?福祉行政そのものに疑問を感じる。
 ・手洗いやマスクの慣行を日々伝えるが、なかなか自主的な行動に移せる人が少なく、その都度声掛けが必要になる。

○移行/地活

- ・在宅による生活リズムの変化、移行支援としては2年での就職の決まらない方
- ・コミュニケーションプログラムは人数を少なくして行う。見学、体験利用者等はGW明けまで止める等。また通所を控える方も見られたため。
- ・今後も運営への不安はある。特に企業見学、実習、就職活動への不安も

○児童

- ・新規の利用に繋がる話も、新型コロナがあった事で中断してしまい、新規利用の獲得が出来なかったこと
- ・学校に行けなかったり、思うように外出出来ずにイライラしている児童もいた事
- ・市によってオンライン療育が可能な所とそうでない所、必要な書類が違うため対応に苦慮した

○ヘルパー

- ・利用のキャンセルが多かった。
- ・今後、2次、3次とコロナが流行した時は、マスクや消毒液等の在庫がなくなってしまうのではないかと心配しています。
- ・感染者数が増えるたびにご利用者様もヘルパーもコロナに対する過剰な反応が多く、その都度対応してきた。ヘルパーへのマスク、消毒液の配布や利用者、ヘルパーそれぞれ注意喚起のリーフレット作成などを行なった。
- ・不安により精神状況が悪化される方もいらっしゃった。移動支援は感染防止のためお断りした。

○相談 ・利用者さんの中でマスクをつける事(いやがる、出来ない)をしない方がいるので心配していた。